

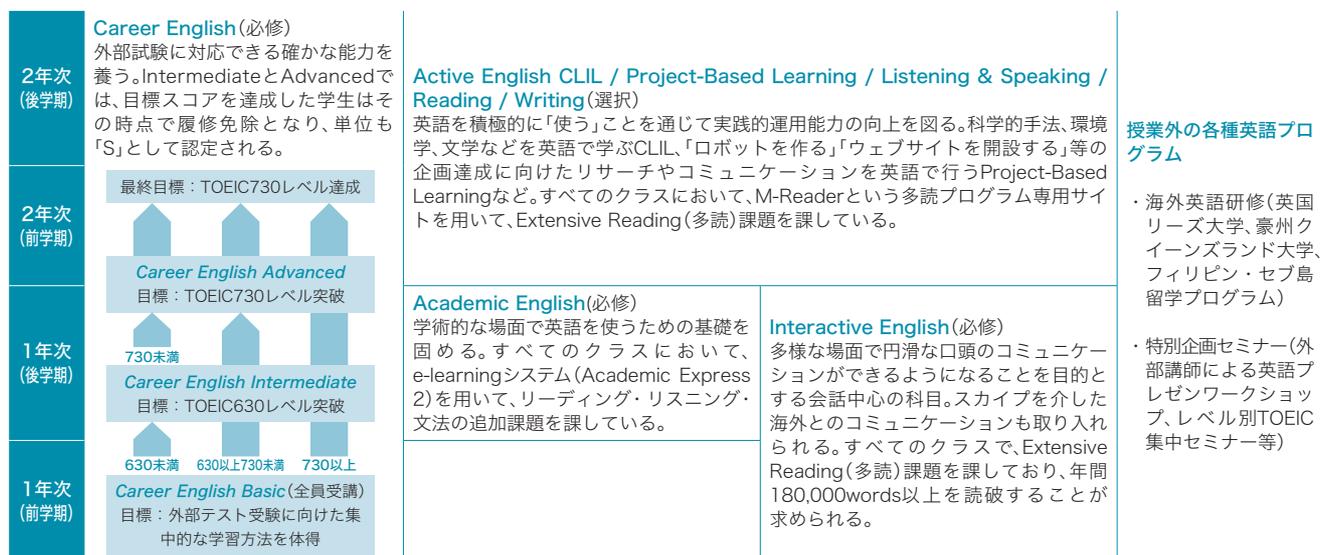
英語運用能力向上に向けた取組

1. 学部「英語鍛え上げプログラム」と 大学院「英語鍛え直しプログラム」の確立と展開

学部1・2年次生を対象に「英語鍛え上げプログラム」を実施し、大量のインプット(読んで聴くこと)を保証するとともに、通常の授業、学習成果の測定、測定結果の分析及び活用というサイクルを確立することで、すべての学生の英語運用能力を確実に伸ばすことを目標としています。

また、大学院生を対象として「英語鍛え直しプログラム」を実施し、学部時代に培った英語運用能力にさらに磨きをかけ、国際的な學術やビジネスの場における英語発信力の強化を目指しています。

■ 学部「英語鍛え上げプログラム」



▼ 学習成果の測定

▲ 分析結果の活用

- ・ TOEIC一斉受験(1年次生は入学時及び前学期終了時、730点未満の2年次生は前学期終了時及び後学期終了時)スコアをCareer English Basic/Intermediate/Advancedの成績に加味
- ・ CBT英語スピーキングテスト一斉受験(1年次後学期)スコアをInteractive Englishの成績に加味
- ・ 授業中に実施する各種テスト
毎授業の前には大量の課題を課し、授業では課題内容に関する質問を受けた後、理解度を確認するテストを行う。

測定結果の分析

- ・ TOEICスコア分析管理システムの構築
TOEICスコアをデータベース化。学生や教員は、個人のスコアや全体のスコアを時系列で確認できる。それをもとに、学生は自律的に今後の学習計画を立て、教員はカリキュラムや授業内容の改善に役立てる。
- ・ CBT英語スピーキングテスト成績ファイル返却システムの構築
CBT英語スピーキングテストのスコアレポートを学生ポータルから閲覧できる。

■ 大学院「英語鍛え直しプログラム」

大学院

学術科学英語、英語によるプレゼン能力を高める授業等、計13科目を開講

学部と大学院時代に取得したTOEICスコアの紐付